

JR連合

第15回政策シンポジウムを開催する



5月19日、都内において第15回政策シンポジウム・決起集会「高速鉄道・新幹線ネットワークの構築・計画推進に向けて」を開催し、貨物鉄産労から辻村中央執行委員長・鈴木教仁書記長が参加し、当日は、JR連合国会議員懇談会・21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属議員・友誼産別・JR各社等、合わせて約100名が参集し、約150名がWEB参加しました。



会を代表して挨拶に立ったJR連合上村会長は、「新幹線は、安全性・安定性・高速性・大量輸送・環境性に優れた極めて有効な交通手段であり、すでに開業した区間の実績を見れば明らかで、新幹線整備は社会や経済への波及効果は大きいことから、高速鉄道・新幹線ネットワークの構築・計画推進は必要である」と力強く述べられ、



来賓挨拶では、JR連合国会議員懇談会より、榛葉賀津也会長・小川淳也副会長・泉健太事務局長、各々より高速鉄道の必要性・重要性について挨拶を頂戴しました。

続いて、課題提起①として、JR連合石川産業政策局長より、「新幹線ネットワークの現状と取り巻く情勢・課題について」提起し、課題提起



②では、鉄構労松本書記長より、「B/Cの算出方法と課題について」提起され、

基調講演では、金沢大学山口裕通准教授より、「携帯電話位置情報データからわかる新幹線開業による旅行先価値向上効果」を拝聴しました。



決起集会では、北労組・西労組・九州労組・東海ユニオン・四国労組より決意表明を述べられ、最後に決議採択し、上村会長によるガンバロウ三唱で会を終えました。